

平成 28 年 9 月 5 日

市政記者クラブ 様

総務局総合調整部

主幹(アジア競技大会の招致に係る総合調整) 長屋 信明

TEL 972-2230

**「第 20 回アジア競技大会(2026 年)の国内立候補都市公募」
に対する名古屋市の立候補の取り下げについて**

2026 年開催予定の第 20 回アジア競技大会につきまして、本市は愛知県との「共催」による開催を目指し、本年 5 月 13 日、縣市連名で、JOC に立候補意思表明書を提出するとともに、招致活動に取り組んでまいりましたが、本日、下記の理由により立候補を取り下げる(県との共催を白紙に戻す。)ことといたしましたので、お知らせします。

記

1 取り下げの理由

アジア競技大会の開催にあたっては、多額の開催経費が必要となることから、本市は、たとえ粗い試算であっても大会必要経費と縣市負担割合を市民と議会に示し、丁寧に説明責任を果たすことが不可欠であると考え、愛知県と協議を続けてまいりました。

しかしながら、今般、愛知県から、OCA に提出する立候補意思表明書の一部となる開催構想 ver.2 について、選手村整備費を含めた大会全体経費及び縣市負担割合は掲載せずに、公表すると連絡を受けたことから、市民への説明責任が果たせないことが明らかになったので、本日朝、「名古屋市アジア競技大会招致推進本部会議(市長が本部長)」を開催し、本市の立候補を取り下げることといたしました。

2 その他

本市にとって、アジア競技大会の開催は意義があるとの考えに変わりはないことから、県において本市の提案に真摯に耳を傾けていただき、また、OCA 及び JOC の了解を得るなどの条件を整えたいと、愛知県から改めて共催の申し入れがあれば、本市は真摯に検討したいと考えています。

記者会見における市長発言文

- 2026年開催の第20回アジア競技大会につきまして、本今朝、幹部会のメンバーを構成員とする「アジア競技大会招致推進本部会議」を開催し、誠に苦渋の決断ではございますが、本市は立候補表明を取り下げることといたしました。
- 皆様もご存じのとおり、第20回アジア競技大会は、愛知県と名古屋市の「共催」で開催しようと知事と私とで決め、今年の5月13日に、日本オリンピック委員会（JOC）に対し、立候補意思表明書を提出いたしました。
- 私は、立候補表明した以上、この地域の振興のために、またcity of dreamの一つの象徴としても、必ず招致を勝ち取り成功させなければならないとの強い思いを持っておりました。そのため、7月には総務局に招致のための専任組織を設置するとともに、県市で協力して、アジアオリンピック評議会（OCA）の視察を受け入れるなど、精力的に準備を進めてまいりました。
- その一方で、アジア競技大会の開催にあたっては多額の開催経費が必要となることから、このビッグプロジェクトを成功させるためには、230万市民の理解を得ることが不可欠であり、最も重要なことだと考えておりました。
- そのために、大会開催に必要な経費を、たとえ粗い試算であっても市民の皆様や議会に示し、丁寧に説明することで理解を得るとともに、市民の皆様に納得していただける県市負担割合を示すことがトップたる私の責任であると考えておりました。こうした方針のもと、愛知県に対しましては、事務方だけでなく私からも繰り返し本市の考えを説明し、協議してまいりました。
- そして、8月25日には、本市のギリギリの提案として、選手村整備費を含め大会全体経費を850億円と見込むとともに、県市負担割合につきましては、県市の人口割合や愛・地球博、あいちトリエンナーレなどの過去の事例、さらには、今般のアジア競技大会を共催という形で開催する「重み」等を総合的に勘案して2：1、メイン会場となる瑞穂陸上競技場につきましては、アジア競技大会の開催に関わらず、本市が計画中の規模（可動席込みで35,000人規模）までは本市が整備するとの考えも、愛知県にお伝えしました。

- また、併せて、もし大会全体経費を示すことができず、縣市負担割合も決まらないとなると、市民・議会への説明責任を果たせないこととなるため、本市は9月25日のOCA総会には出席できないことも併せてお伝えしてきたところでございます。
- しかしながら、今般、愛知県から明日発表するとお聞きした開催構想 v e r . 2、これはOCAに提出することとなる「立候補意思表明書」の一部となる大変重要な資料ですが、この中に、選手村整備費を含めた大会全体経費も縣市負担割合も記載しない旨の連絡がありました。
- これで、私どもが繰り返し主張してきました市民及び議会への説明責任を果たせないことが明らかとなったことから、冒頭申し上げましたとおり、苦渋の決断として、アジア競技大会の国内候補都市としての立候補を取り下げ、愛知県との「共催」をいったん白紙に戻すこととしたものでございます。
- 立候補を取り下げることで、愛知県、名古屋市の信用を落とし、ひいては日本の国際的信用までも落とすおそれのあることは承知していますが、私は名古屋市長として、市民への説明責任を全うすることなしに、市民の税金を使うことはできないと考え、断腸の思いで、立候補を取り下げることを決断しました。
- もとより私としては、アジア競技大会を共催して成功させたいという強い思いには変わりありませんので、愛知県から市民への説明責任を全うできるご提案があれば、いつでも真摯に検討するつもりです。
- 市民の皆様、議員の皆様、そして関係の皆様には、一旦は第20回アジア競技大会の国内立候補都市公募に立候補しながら、結果としてこのような事態となり、多大なご迷惑をおかけしたことについて、深くお詫び申し上げます。